平成25年３月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成25年２月12日

上場会社名　　アドアーズ株式会社　　上場取引所　大
コード番号　　４７１２　ＵＲＬ　http://www.adores.co.jp
代表者　　（役職名）代表取締役会長　　（氏名）藤澤　信義
問合せ先責任者　（役職名）常務取締役　　（氏名）恩田　聖敬　　ＴＥＬ　03（5843）8800

四半期報告書提出予定日　　平成25年２月13日　　配当支払開始予定日　　―――
四半期決算補足説明資料作成の有無：　無
四半期決算説明会開催の有無　　：　無

（百万円未満切捨て）

１．平成25年３月期第３四半期の業績（平成24年４月１日～平成24年12月31日）

（１）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年３月期第３四半期	14,526	△15.2	313	△67.2	285	△67.5	456	△51.4
24年３月期第３四半期	17,127	△9.1	954	121.4	880	211.7	938	1,145.5

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年３月期第３四半期	3.79	―
24年３月期第３四半期	8.09	―

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年３月期第３四半期	17,562	9,594	54.6	79.60
24年３月期	19,911	9,316	46.8	77.29

（参考）自己資本　　25年３月期第３四半期　　9,594百万円　　24年３月期　　9,316百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年３月期	―	0.00	―	1.00	1.00
25年３月期	―	0.00	―		
25年３月期（予想）				―	―

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　無

※平成25年３月期（予想）の期末配当は未定となっております。

３．平成25年３月期の業績予想（平成24年４月１日～平成25年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,000	△8.5	400	△60.1	300	△67.8	130	△85.9	1.08

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　無

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：　有

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　無

②　①以外の会計方針の変更　　：　無

③　会計上の見積りの変更　　：　無

④　修正再表示　　：　無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年３月期３Ｑ	124,557,592株	24年３月期	124,557,592株
②　期末自己株式数	25年３月期３Ｑ	4,021,612株	24年３月期	4,019,592株
③　期中平均株式数（四半期累計）	25年３月期３Ｑ	120,536,731株	24年３月期３Ｑ	116,038,000株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

本四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表レビュー手続きを実施中です。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）財政状態に関する定性的情報 …… 4
（３）業績予想に関する定性的情報 …… 4
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 5
（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 5
（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 5
３．継続企業の前提に関する重要事象等 …… 5
４．四半期財務諸表 …… 6
（１）四半期貸借対照表 …… 6
（２）四半期損益計算書 …… 9
第３四半期累計期間 …… 9
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 10
（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 10
（５）セグメント情報等 …… 10

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する定性的情報

当第３四半期累計期間におけるわが国経済は、内需・外需ともに先行きの不透明感が払拭できない中、消費税の引き上げ法案の可決や政権交代などの政局の不安定さなども重なり、軟調に推移いたしました。また個人消費動向についても、震災後の節約志向や先行きへの不安などから消費文化のあり方まで変わりつつあります。

当社が属するアミューズメント施設運営業界におきましても、前述の消費文化の変遷による個人消費単価の落込みに加え、各種ゲームにおいてヒット作がでない状況とも相まって、非常に厳しい経営環境が続きました。

このような環境下において、当社では引き続き新たな「成長」に向けて、平成24年５月29日付「親会社の異動に関するお知らせ」のとおり、Jトラスト株式会社（大阪証券取引所第２部：8508）を親会社に迎えたほか、財務面におきましても、有利子負債の残高を昨年６月末時点でのリファイナンスにて５年の長期借入へとシフトすることにより、キャッシュ・フローの安定化、今後数年内での実質的な無借金経営を目指す財務体質の構築・強化を果たすなど、盤石の資本財務体質に向けてまい進しております。

事業戦略面におきましても、主力のアミューズメント施設運営事業では、当社メダル運営の根幹ともいえる「メダル会員サービス」をシニア層向けサービスも含める新たな形として６年ぶりに刷新したことをはじめ、平成24年12月より開始いたしました「アドアーズ設立45周年記念イベント」などの全店型「集客」に資する梃入れ施策を積極的に推し進めました。

また、当社の第２の柱である設計・施工事業におきましては、社内におけるデザイナー体制の強化など人員体制の充実をはじめ、多面的な営業を積極的に仕掛けた結果、得意のパチンコホールを中心に多くの新規・継続顧客からの受注を獲得するに至りました。

さらに、平成24年11月28日付「親会社株式の処分ならびに特別利益の発生に関するお知らせ」のとおり、会社法第135条3項に基づく子会社の義務として、親会社であるJトラスト株式会社の普通株式を処分したことにより、当該株式の売却にかかる諸経費を除いた171百万円の売却益が発生いたしましたが、主力事業であるアミューズメント施設運営事業の落ち込みが想定以上であったことなどから、当第３四半期累計期間における業績は、全社売上高14,526百万円（前年同四半期比2,601百万円減・△15.2%）、営業利益313百万円（同641百万円減・△67.2%）、経常利益285百万円（同594百万円減・△67.5%）、四半期純利益456百万円（同482百万円減・△51.4%）と、減収・減益となりました。

なお、この事業環境ならびに収益状況、そして今後の業界市況や変貌しつつある消費動向をはじめとした外部環境を慎重に見据えた結果、平成24年11月７日付「平成25年３月期第２四半期累計間及び通期業績予想（非連結）の修正に関するお知らせ」にて開示のとおり、想定を上回る外的要因の影響もあって、主力のアミューズメント施設運営事業の集客数・顧客単価は伸び悩み、またこうした売上の減少による利益減を補うべく、各事業部の徹底したコスト削減や管理部門においても全社的な合理化策を引き続き推進しているものの、期初に想定していた収益には至らないと判断し、平成25年３月期の通期業績の見通しも下方修正しております。

セグメント別の業績等の概要については以下のとおりであります。

【アミューズメント施設運営事業】

	平成24年３月期 第３四半期(実績)	平成25年３月期 第３四半期(実績)	前第３四半期比
売上高	13,806百万円	12,299百万円	△10.9%
セグメント利益	1,276百万円	748百万円	△41.4%

当社の主力事業であるアミューズメント施設運営事業におきましては、長引く個人消費マインドの低迷や消費志向の変化等、顧客単価の回復が望めない状況の中、期初より「集客」を重要課題として取り組んでまいりました。

10月より、当社メダル運営の根幹である「メダル会員サービス」におきましては、直近のニーズに合致したシニア層向けサービスなどを付加して見直し、６年ぶりとなる大幅刷新を図りました。その上で、全アドアーズ店舗での合同イベント「アドアーズ設立45周年記念イベント」を12月上旬より展開したほか、有名キャラクターとコラボレーションしたプライズゲームイベントや、人気アニメコンテンツとのコラボイベントなども積極的に提供し、ライトユーザー層の取り込みに重点をおいた集客戦略を展開いたしました。また、10月からは公式ツイッターを開始したほか、立地・戦略上注目度の高い新店「カラオケアドアーズ秋葉原店」を軸とした多数のメディアを活用した販促・広報戦略も推進しております。

これら施策によって、新規顧客の獲得においては第２四半期まで続いた減少傾向から持ち直しつつあるものの、ヒットマシン・景品不足等の影響が大きく顧客数において前年を超えるまでには至らず、また、顧客単価の伸び悩みも想定以上であったことなどから、セグメント売上高につきましては12,299百万円（前年同四半期比1,507百万円減・前年同四半期比△10.9%）、営業利益につきましては748百万円（同528百万円減・同△41.4%）と減収・減益となりました。

●既存店売上前年比推移

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
93.8%	93.3%	95.3%	92.5%	92.6%	90.7%	91.9%	90.9%	90.7%

なお、当第３四半期における出退店はございませんが、アクアライン店において、東京湾横断道路「海ほたる」の施設全館リニューアルに合わせて平成25年１月15日より一時休店の後、平成25年２月８日にリニューアルオープンしております。

また、親会社であるＪトラスト株式会社のグループ傘下のＫＣカード株式会社との共同事業であるレンタルＤＶＤ・ビデオ事業におきまして、人員・資材の戦略的な集中をはかるべく、１号店として開設した「レンタル！アドアーズ成増店」については、平成24年10月31日をもちまして閉店しております。

【設計・施工事業】

	平成24年３月期 第３四半期(実績)	平成25年３月期 第３四半期(実績)	前第３四半期比
売上高	2,636百万円	1,596百万円	△39.4%
セグメント利益	127百万円	40百万円	△68.6%

設計・施工事業におきましては、強化した社内デザイン体制を当社の強みとして推しながら、企画・設計から施工までのトータルプロデュースができる提案型営業を積極的に展開することで、継続して新規パチンコホール案件を獲得するなど堅調に推移いたしました。しかしながら、震災後需要が集中した前年上半期における施工高を埋めるには至らず、売上高1,596百万円(前年同四半期比1,039百万円減・前年同四半期比△39.4%)・セグメント利益40百万円(同87百万円減・同△68.6%)と減収・減益となりました。

なお、今後の受注拡大・収益確保を目指し、更なる人材面での強化を継続するほか、Jトラストグループと連携した当社独自のスキームの開発、業界専門誌等を通じた積極的な情報発信など、営業面の更なる強化を図っております。

【不動産事業】

	平成24年３月期 第３四半期(実績)	平成25年３月期 第３四半期(実績)	前第３四半期比
売上高	657百万円	619百万円	△5.8%
セグメント利益	21百万円	9百万円	△56.9%

不動産事業におきましては、一部テナントからの減額要請による収益減に対応せざるを得ない状況が続いたものの、テナントリーシング件数は堅調に推移し、管理不動産物件の入居率は概ね計画通りに維持した他、設計・施工事業と連動した効率的な不動産活用および物件の仲介に注力した結果、売上高は619百万円（前年同四半期比37百万円減・前年同四半期比△5.8%）・セグメント利益9百万円（同12百万円減・同△56.9%）となりました。

（２）財政状態に関する定性的情報

当第３四半期の資産につきましては、前事業年度末に比べて2,348百万円減の17,562百万円となりました。これは主として受取手形・現金及び預金が減少したことによるものであります。

負債につきましては、前事業年度末と比べて2,627百万円減の7,967百万円となりました。これは主として支払手形の減少及び有利子負債を圧縮したことによるものであります。

純資産につきましては、前事業年度末に比べて278百万円増の9,594百万円となりました。これは主として配当金の支払及び四半期純利益の増加による影響であります。

（３）業績予想に関する定性的情報

当第３四半期累計期間につきましては、Ｊトラストグループへの参画など大きな転換期を経た経営体制のもと、新たな成長ステージに向けた体制の継続構築を図りました。また近年最も注力してまいりました、財務戦略においては、金融機関からの長期的な支援体制の構築を実現し、先行投資が必要なアミューズメント事業の懸案事項のひとつであるキャッシュ・フローの安定化を実現できました。

一方、事業面においては、個人消費単価の軟調傾向や、いわゆるヒットマシン・ヒット景品が少ない状況だけでなく、近年のソーシャルゲームなどに代表される遊戯ニーズの変化や、パチンコ・パチスロ業界の低料金施策の固定化など、依然として厳しい事業環境が続いております。

残る第４四半期につきましても、「基本に忠実」かつ「変化に敏感」な経営・運営のもと、この軟調傾向の払拭を目指して、より一層の経営体質ならびに収益体質の強化に努めてまいります。

主力であるアミューズメント施設運営事業では、上記のとおり、シニア層やソーシャルゲーム等で新たにゲームに触れあった新規顧客を取り込むべく、引き続きPR活動や有力コンテンツとのタイアップ、独自商品の開発にも注力する傍ら、各種新規入会キャンペーンや直近でも人気の高かったイベントをブラッシュアップするなど、新規顧客層への提案・訴求の強化を図ります。また第６回目となる接客コンテストの実施等を通じて、環境面の充実に向けても努めてまいります。

他事業におきましても部門間の垣根を越えた連携をさらに推し進め、新規案件の獲得と収益性の向上を図るとともに、管理部門も含めた全社的な店舗支援体制の強化と合理化策を継続展開してまいります。これらを礎とした上で、業種を問わず外部有力企業とのアライアンスの強化、ならびにグループ企業との更なるシナジー効果の最大化を図ることで、企業の収益力拡大に向けてまい進いたします。

本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであるため、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算については、当第３四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実行税率を合理的に見積り、税引前四半期当期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

３．四半期財務諸表

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （平成24年３月31日）	当第３四半期会計期間 （平成24年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,364,571	2,187,106
受取手形・完成工事未収入金等	1,279,767	769,276
未成工事支出金	1,649	46,474
貯蔵品	124,759	171,618
前払費用	477,662	481,424
繰延税金資産	71,362	71,362
その他	172,529	206,771
貸倒引当金	△1,154	△750
流動資産合計	5,491,147	3,933,283
固定資産		
有形固定資産		
アミューズメント施設機器	18,466,977	19,137,908
減価償却累計額	△15,380,787	△16,149,052
アミューズメント施設機器(純額)	3,086,190	2,988,856
建物	9,570,006	9,428,791
減価償却累計額	△7,655,781	△7,517,945
建物（純額）	1,914,225	1,910,845
構築物	20,726	20,726
減価償却累計額	△18,636	△18,880
構築物（純額）	2,090	1,845
車両運搬具	1,396	1,396
減価償却累計額	△1,335	△1,366
車両運搬具（純額）	60	29
貸与資産	285,987	62,833
減価償却累計額	△273,741	△60,281
貸与資産(純額)	12,246	2,551
工具器具・備品	716,988	782,291
減価償却累計額	△654,037	△671,544
工具器具・備品（純額）	62,950	110,747
土地	1,306,182	1,134,584
リース資産	987,651	987,651
減価償却累計額	△855,845	△909,029
リース資産（純額）	131,806	78,621
建設仮勘定	15,007	19,648
有形固定資産合計	6,530,758	6,247,730
無形固定資産		
借地権	293,602	293,602
のれん	206,588	160,294
その他	48,506	28,271
無形固定資産合計	548,698	482,168

（単位：千円）

	前事業年度 （平成24年３月31日）	当第３四半期会計期間 （平成24年12月31日）
投資その他の資産		
投資有価証券	32,296	32,054
関係会社株式	143,040	－
敷金及び保証金	6,401,701	6,339,230
長期受取手形	275,240	31,390
関係会社出資金	23,089	－
破産更生債権等	120,758	117,242
長期前払費用	32,447	28,076
繰延税金資産	369,214	404,454
その他	127,001	126,942
貸倒引当金	△184,089	△180,264
投資その他の資産合計	7,340,701	6,899,125
固定資産合計	14,420,158	13,629,024
資産合計	19,911,305	17,562,307
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	3,048,537	2,487,252
短期借入金	1,207,670	260,200
1年内返済予定の長期借入金	3,871,605	856,548
未払金	348,646	385,438
未払費用	95,697	66,675
リース債務	86,599	26,309
未払法人税等	62,497	32,494
未払消費税等	36,829	14,489
前受金	165,110	135,018
未成工事受入金	138,421	43,345
預り金	37,096	29,836
1年内償還予定の社債	212,600	17,000
資産除去債務	51,384	40,515
その他	57,120	2,248
流動負債合計	9,419,817	4,397,373
固定負債		
社債	200,000	－
長期借入金	334,765	2,806,448
預り保証金	425,833	401,721
長期未払金	－	171,048
リース債務	20,049	11,332
資産除去債務	193,942	179,467
固定負債合計	1,174,590	3,570,018
負債合計	10,594,407	7,967,392

（単位：千円）

	前事業年度 （平成24年３月31日）	当第３四半期会計期間 （平成24年12月31日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,405,000	4,405,000
資本剰余金	4,359,307	4,359,307
利益剰余金	920,025	1,255,740
自己株式	△426,512	△426,737
株主資本合計	9,257,820	9,593,310
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	59,076	1,604
評価・換算差額等合計	59,076	1,604
純資産合計	9,316,897	9,594,915
負債純資産合計	19,911,305	17,562,307

（２）四半期損益計算書
（第３四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第３四半期累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）	当第３四半期累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年12月31日）
売上高	17,127,879	14,526,808
売上原価	14,541,931	12,723,154
売上総利益	2,585,948	1,803,653
販売費及び一般管理費	1,631,727	1,490,650
営業利益	954,221	313,003
営業外収益		
受取利息	1,543	1,192
家賃収入	10,382	5,854
広告協賛金	42,169	51,047
保険返戻金	－	5,542
その他	33,571	23,985
営業外収益合計	87,666	87,622
営業外費用		
支払利息	135,276	88,821
社債発行費	5,714	－
資金調達費用	－	19,100
その他	20,318	6,886
営業外費用合計	161,309	114,808
経常利益	880,578	285,817
特別利益		
固定資産売却益	61,952	113,052
親会社株式売却益	－	171,989
賞与引当金戻入額	160,966	－
その他	6,947	12,072
特別利益合計	229,867	297,114
特別損失		
固定資産売却損	7,256	18,048
固定資産除却損	3,086	7,062
減損損失	103,565	36,513
本社移転費用	－	5,424
解約違約金	－	16,090
その他	12,574	13,418
特別損失合計	126,482	96,557
税引前四半期純利益	983,962	486,375
法人税等	45,165	30,118
四半期純利益	938,797	456,256

（3）継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

（4）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

（5）セグメント情報等
Ⅰ　前第３四半期累計期間（自平成23年４月１日 至平成23年12月31日）
１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報
「Ⅱ　当第３四半期累計期間 ２.報告セグメントの変更等に関する事項」に記載のとおりであります。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

Ⅱ　当第３四半期累計期間（自平成24年４月１日 至平成24年12月31日）
１.報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期損益計算書計上額(注)３
	アミューズメント施設運営事業	設計・施工事業	不動産事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	12,299,491	1,596,590	619,800	14,515,881	10,926	14,526,808	－	14,526,808
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－	－	－
計	12,299,491	1,596,590	619,800	14,515,881	10,926	14,526,808	－	14,526,808
セグメント利益	748,181	40,142	9,381	797,705	6,730	804,435	△491,432	313,003

（注）１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パチスロ機周辺機器レンタル事業であります。
２．セグメント利益の調整額△491,432千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△491,432千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
３．セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２.報告セグメントの変更等に関する事項

第１四半期会計期間より、従来報告セグメントでありました「レンタル事業」が計画的な事業収束に向かい報告セグメントに含まない「その他」へ区分致します。これにより「アミューズメント施設運営事業」「設計・施工事業」「不動産事業」「レンタル事業」と従来４つの報告セグメントとしておりましたものを「アミューズメント施設運営事業」「設計・施工事業」「不動産事業」の３つの報告セグメントと上述の「その他」の区分とに変更致します。

なお、変更後の事業区分による前第３四半期累計期間のセグメント情報は以下のとおりです。

前第３四半期累計期間（自平成23年４月１日 至平成23年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期損益計算書計上額(注)３
	アミューズメント施設運営事業	設計・施工事業	不動産事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	13,806,760	2,636,555	657,703	17,101,020	26,859	17,127,879	－	17,127,879
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－	－	－
計	13,806,760	2,636,555	657,703	17,101,020	26,859	17,127,879	－	17,127,879
セグメント利益	1,276,418	127,770	21,761	1,425,951	5,287	1,431,238	△477,017	954,221

（注）１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パチスロ機周辺機器レンタル事業であります。

２．セグメント利益の調整額△477,017千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△477,017千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３．セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「アミューズメント施設運営事業」セグメントにおいて、閉店を決定した店舗の資産グループについて帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額15,004千円を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、減損損失計上額は、当第３四半期累計期間において36,513千円であります。